

平成 25 年度 市政世論調査

報告書 概要版

この報告書概要版は、平成 25 年 6 月 21 日～7 月 11 日にかけて実施した「平成 25 年度市政世論調査」の主な結果をまとめたものです。

< 目次 >

I. 調査の概要	1
II. 調査回答者の属性	2
III. 調査結果	4
1. 暮らしや居留意向について	4
2. 越谷市の景観風景について	5
3. 墓地に対する考えについて	6
4. 「貸し農園」や「援農」について	7
5. 地場農産物や地産地消について	8
6. こしがやブランド認定制度について	9
7. 再生可能エネルギー・省エネルギーについて	10
8. 医療保険が行う健康増進事業について	12
9. 国民宿舎「両神荘りょうかみそう」について	12
10. 火災報知器の設置状況について	13
11. 男女共同参画について	14
12. 「自治基本条例の普及」「市民参加と協働によるまちづくり」について	16
13. 中核市移行について	17
14. 広報について	18
15. ネーミングライツの導入について	19
16. 越谷市の施策について	19

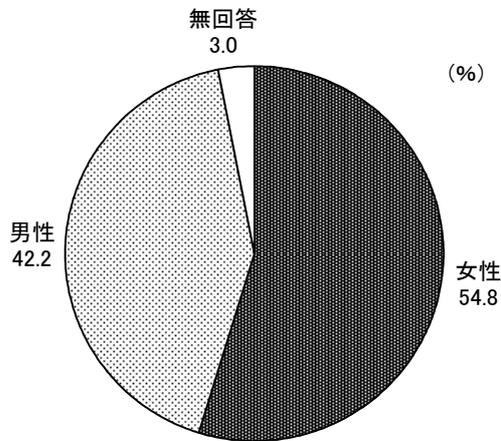
I. 調査の概要

- ◆ 調査地域 : 越谷市全域
- ◆ 調査対象 : 市内在住の 20 歳以上の男女 5,000 人
- ◆ 調査期間 : 平成 25 年 6 月 21 日～7 月 11 日
- ◆ 調査方法 : 郵送方法（郵送配布、郵送回収）
- ◆ 抽出方法 : 住民基本台帳より無作為抽出
- ◆ 回収結果 : 回収率 50.22%

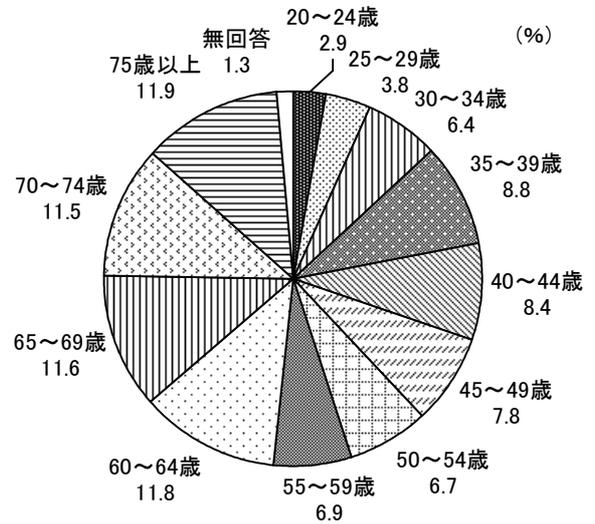
II. 調査回答者の属性

回答者の属性は以下の通りである。

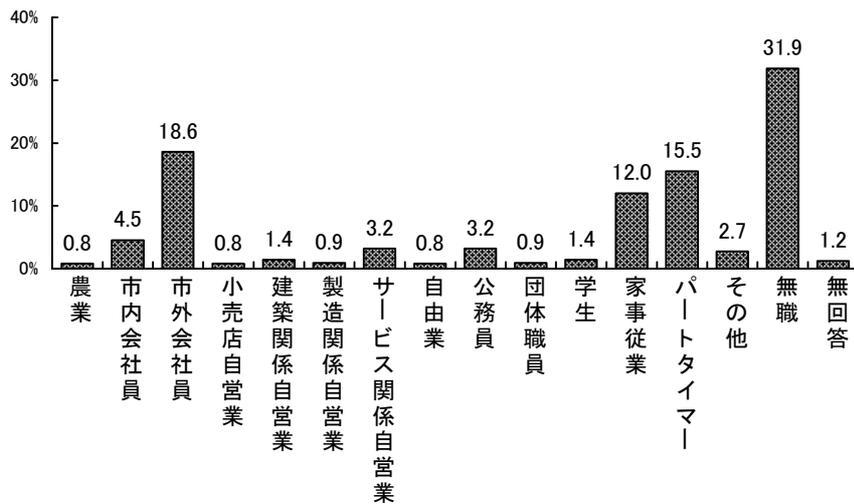
◆性別 (n=2,511)



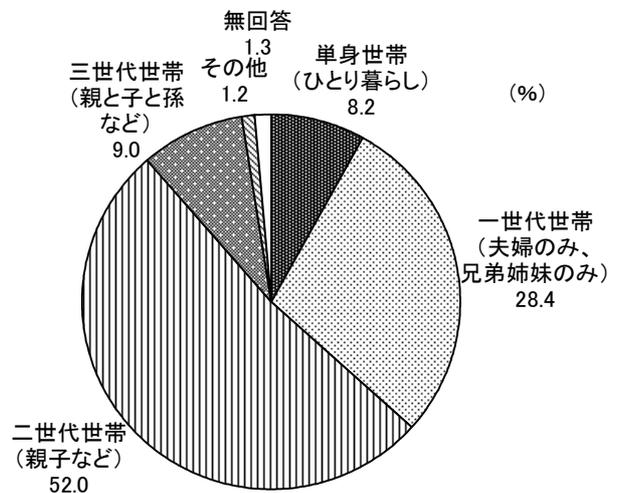
◆年代 (n=2,511)



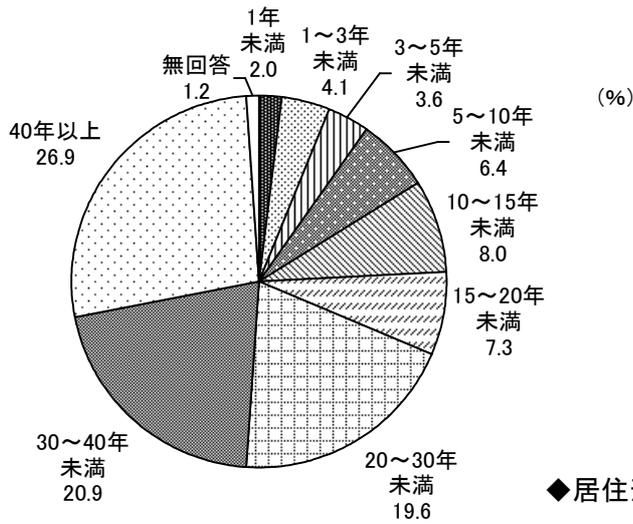
◆職業 (n=2,511)



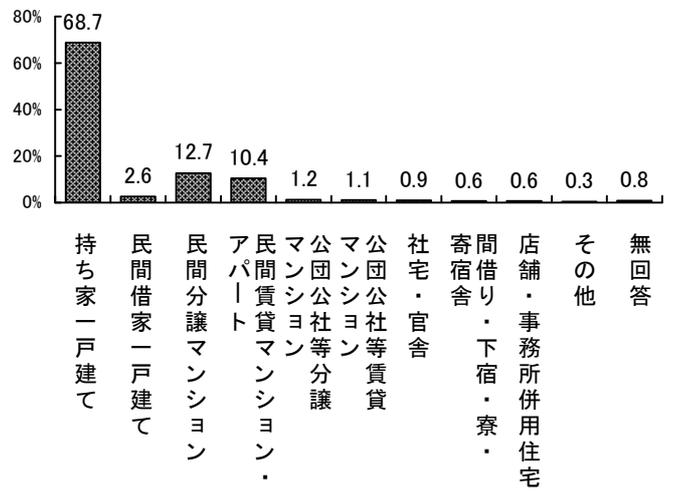
◆世帯の状況 (n=2,511)



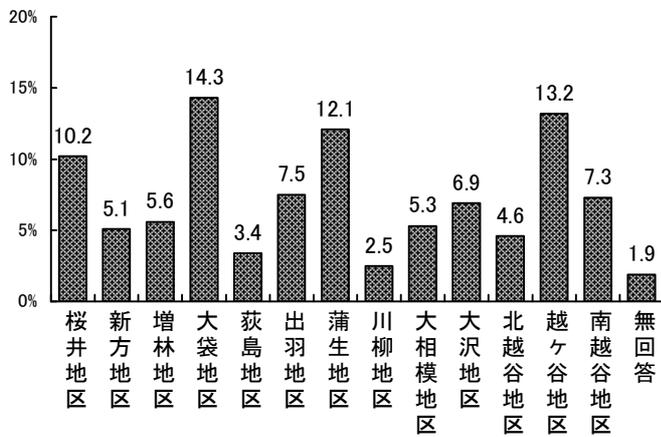
◆居住年数 (n=2,511)



◆居住形態 (n=2,511)



◆居住地区 (n=2,511)



Ⅲ. 調査結果

1. 暮らしや居住意向について

- 現在の暮らし向きについて「十分とはいえないが、一応満足している」人は約4割。
- 定住意向（「ずっと住み続けたい」+「どちらかといえば住み続けたい」）は7割強。
- 転居意向（「どちらかといえば引っ越したい」+「引っ越したい」）の主な理由は、「現在、住んでいる住宅が狭いので」が2割弱で最も多い。

図 1-1 現在の暮らし向き (n=2,511)

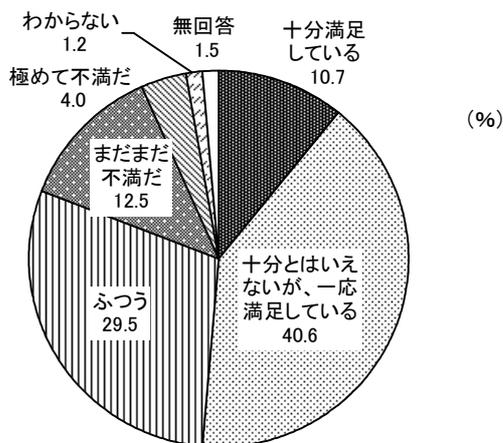


図 1-2 居住意向 (n=2,511)

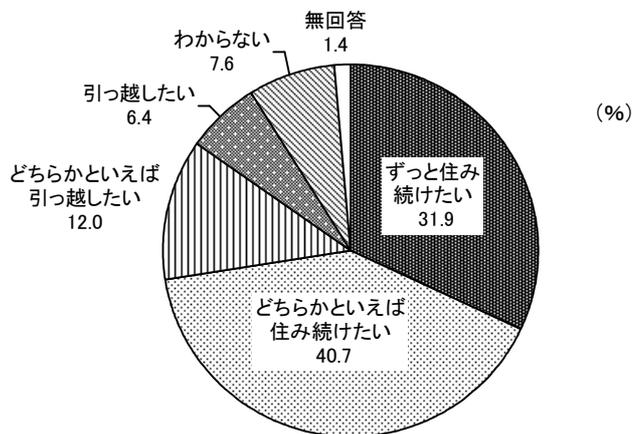
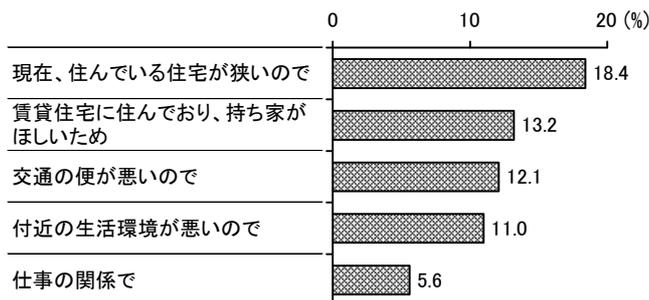


図 1-3 転居意向の理由 (上位 5 位) (n=2,511)



2. 越谷市の景観（風景）について

- 住まいの地区の景観（風景）について「たまに考えることがある」人は約5割、満足度については「十分とはいえないが、一応満足している」が約5割。
- 好きな景観（風景）は「川のある風景」が最も多く、好きではない景観（風景）は「電柱・電線」「散乱しているゴミ」が多い。
- 良い景観（風景）のまちをつくるため行政に望むものは「目標や基本方針を住民に示す」が4割半ばで最も多い。
- 良い景観（風景）のまちをつくるためにできることは「景観の資源となる建築物、樹木、風景等を大事にする」が5割強で最も多い。

図 2-1 景観（風景）の考察 (n=2,511)

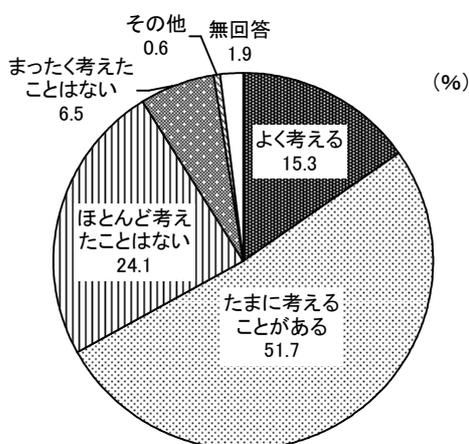


図 2-2 景観（風景）の満足度 (n=2,511)

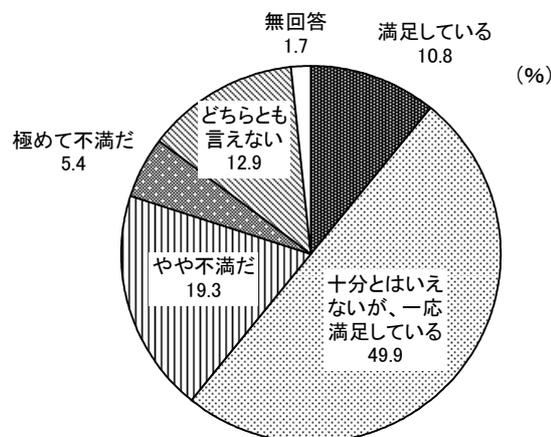


図 2-3 好きな景観（風景）（上位 5 位）(n=2,511)

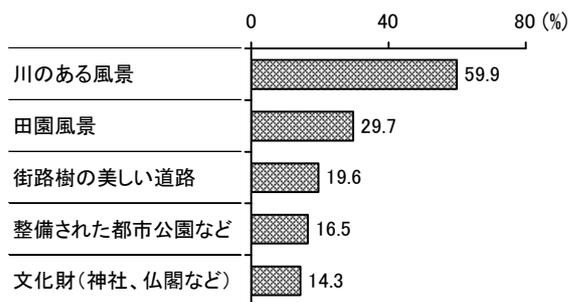


図 2-4 好きではない景観（風景）（上位 5 位）(n=2,511)

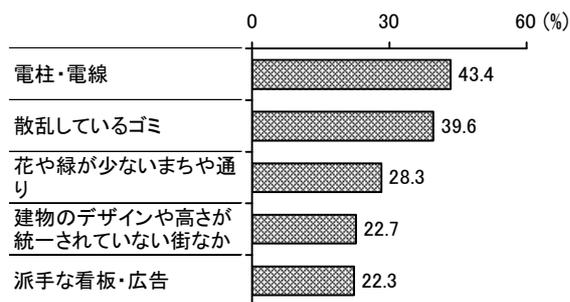


図 2-5 行政に望むもの（上位 5 位）(n=2,511)

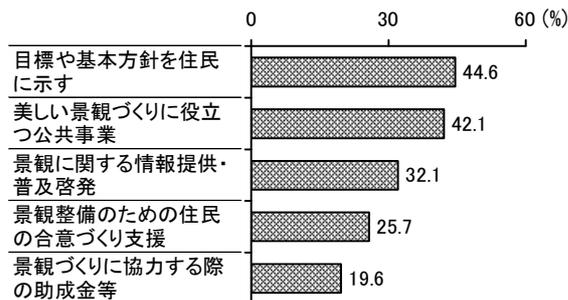
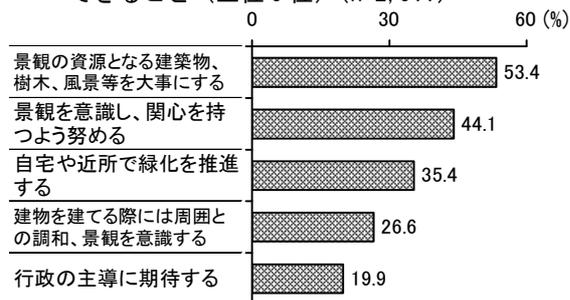


図 2-6 良い景観（風景）のまちをつくるためにできること（上位 5 位）(n=2,511)



3. 墓地に対する考えについて

- 越谷市内での墓地の所有意向（「市内に所有している」+「市内に所有を希望している」）は3割半ば。
- 市内に墓地を所有または所有希望の人が墓地に求めるものは「交通の利便性」が7割弱で最も多い。
- 近隣に墓地の設置が計画されたとき「賛成しない」が約4割。賛成しない理由は「周辺環境に馴染まないから」が約5割で最も多い。
- 墓地の設置が計画されたら「墓地設置の計画を事前に説明会等を通じて関係住民へ明確に知らせる」が7割半ばで最も多い。

図 3-1 越谷市内での墓地の所有意向 (n=2,511)

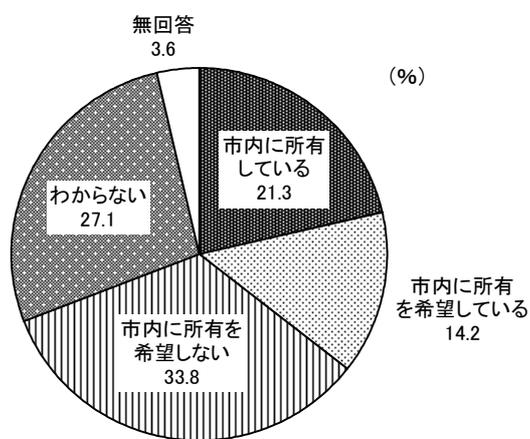


図 3-2 墓地に対して求めるもの (上位 5 位) (n=892)

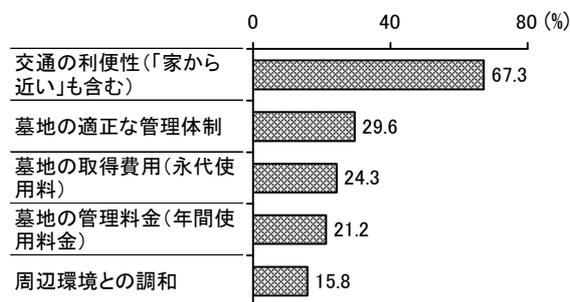


図 3-3 近隣に墓地の設置が計画されることの賛否 (n=2,511)

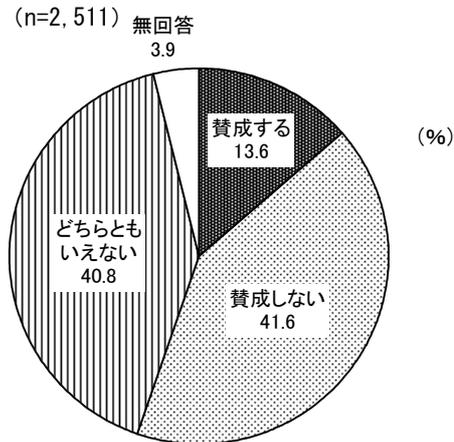


図 3-4 近隣に墓地の設置が計画されることに賛成しない理由 (上位 5 位) (n=1,045)

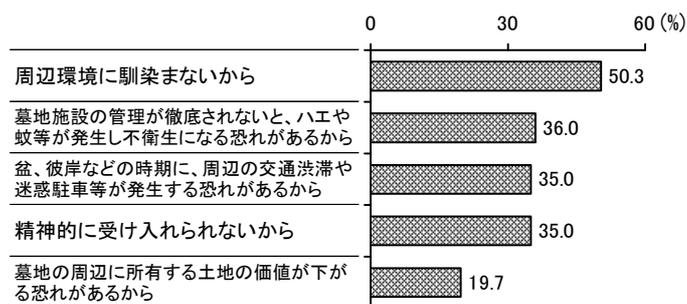
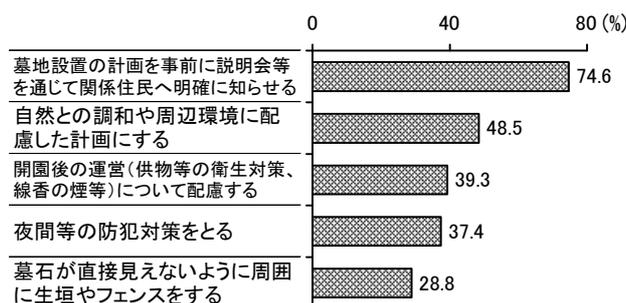


図 3-5 墓地の設置が計画されたときに設置者がとるべき措置 (上位 5 位) (n=2,511)



4. 「貸し農園」や「援農」について

- 農地を所有していない人の「貸し農園」利用意向は2割半ば（利用している人を含む）。
- 「貸し農園」を利用する場合に重視する点は「場所」が4割強で最も多い。
- 農業者の作業を手伝いながら農業体験を行う「援農」の認知度は「知らない」が約7割。
- 「援農」への参加意向がある人（参加してみたいと思う）+「どちらかといえば思う」は約2割、参加の条件は「作業内容」を重視するが7割弱で最も多い。

図 4-1 「貸し農園」の利用意向 (n=2, 323)

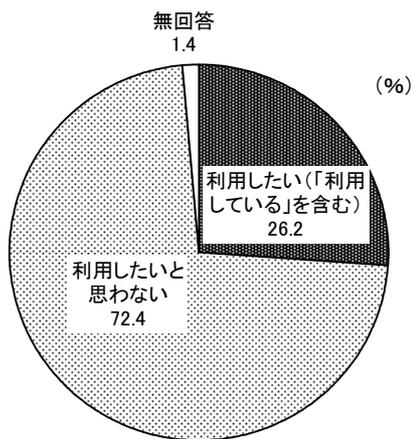


図 4-2 「貸し農園」を利用する場合に重視する点 (n=609)

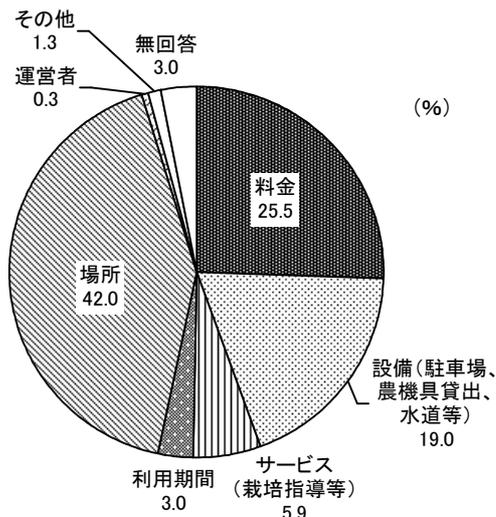


図 4-3 「援農」の認知 (n=2, 511)

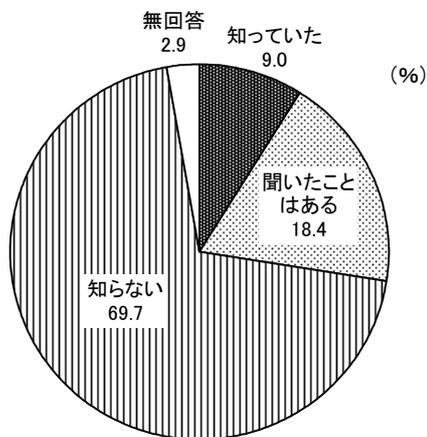


図 4-4 「援農」の参加意向 (n=2, 511)

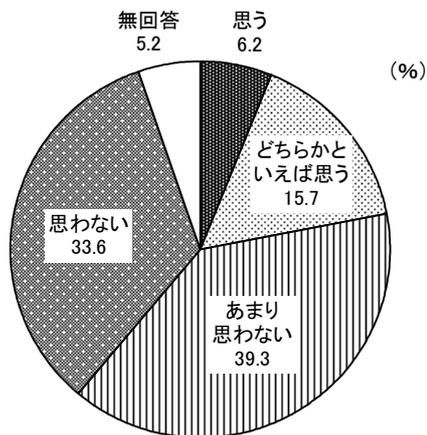
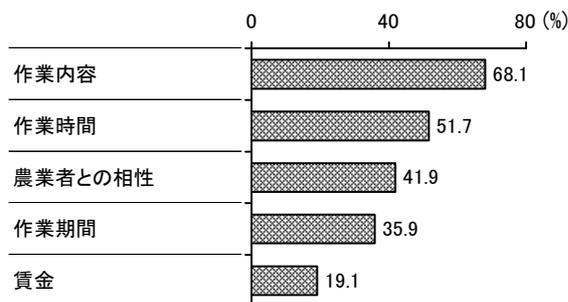


図 4-5 「援農」に参加する場合に重視する条件 (n=551)



5. 地場農産物や地産地消について

- 越谷市の農業特産物の認知度は「くわい」が6割半ばで最も多い。
- 購入したことがある越谷の農業特産物は「ねぎ」が6割で最も多い。
- 野菜を購入するときに意識することは「鮮度の良さ」が8割半ばで最も多い。
- 地産地消推進のために必要だと思うことは「スーパーマーケットなど、地場農産物を購入できる店の増加」が8割弱で最も多い。

図 5-1 越谷の農業特産物の認知 (n=2,511)

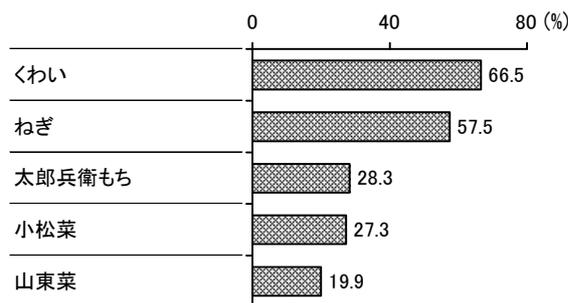


図 5-2 越谷の農業特産物の購入経験 (n=2,511)

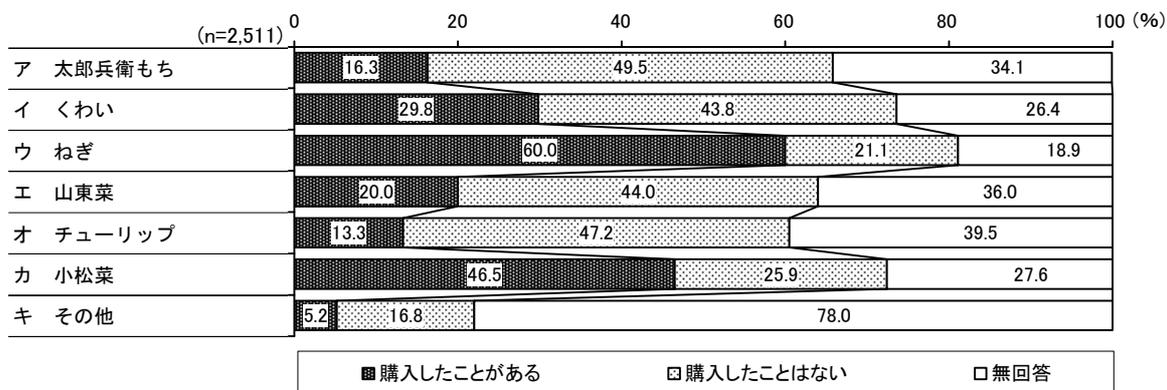


図 5-3 野菜を購入するとき意識すること (n=2,511)

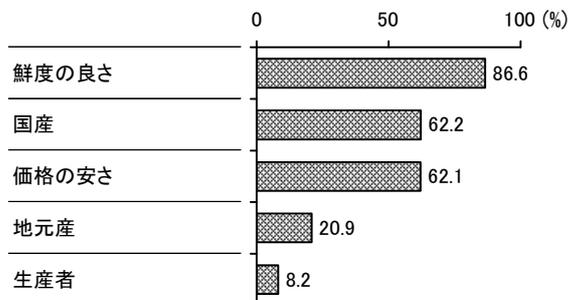
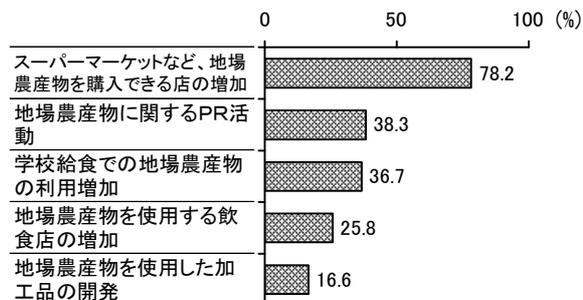


図 5-4 地産地消推進に必要なこと (n=2,511)



6. こしがやブランド認定制度について

- こしがやブランド認定品について「知っている」人は4割強。
- こしがやブランド認定品を購入したことが「ない」人は約7割。
- こしがやブランド認定制度には「越谷市のPR」を期待する人が4割半ばで最も多い。

図 6-1 こしがやブランド認定品の認知 (n=2,511)

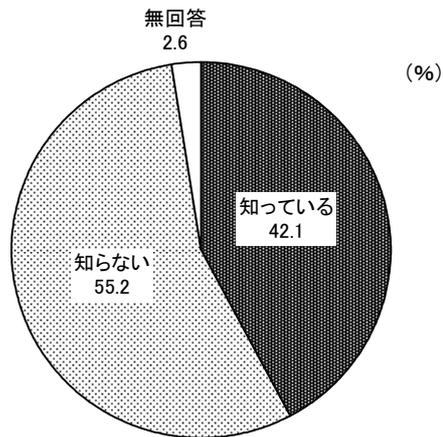


図 6-2 こしがやブランド認定品の購入経験 (n=2,511)

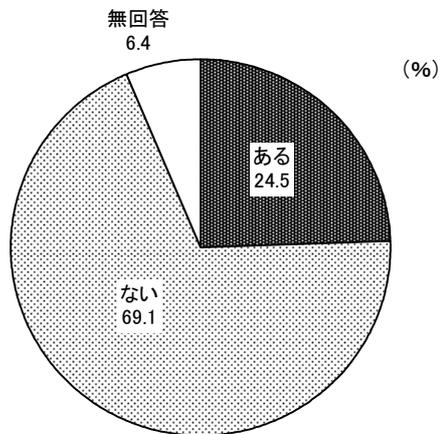
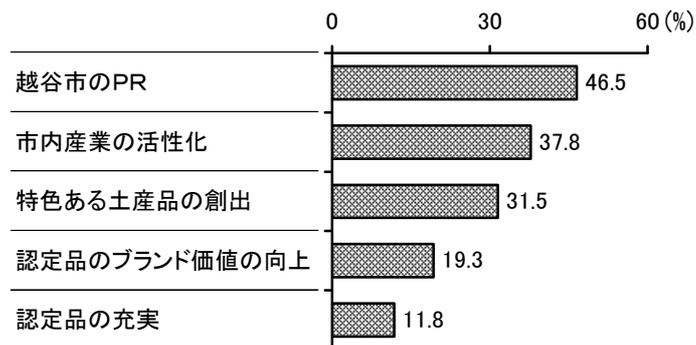


図 6-3 こしがやブランド認定制度への期待 (n=2,511)



7. 再生可能エネルギー・省エネルギーについて

- 再生可能エネルギー・省エネルギー機器について「設置をしたいが難しい」は「太陽光発電」が2割半ば。
- 機器をすでに設置している人の使用した感想は「光熱費や燃料費を削減できた」が6割弱。
- 設置が難しいと答えた人では「価格が今よりも安くなれば導入したい」が6割弱。

図 7-1 設置または設置を考えている再生可能エネルギー・省エネルギー機器 (n=2,511)

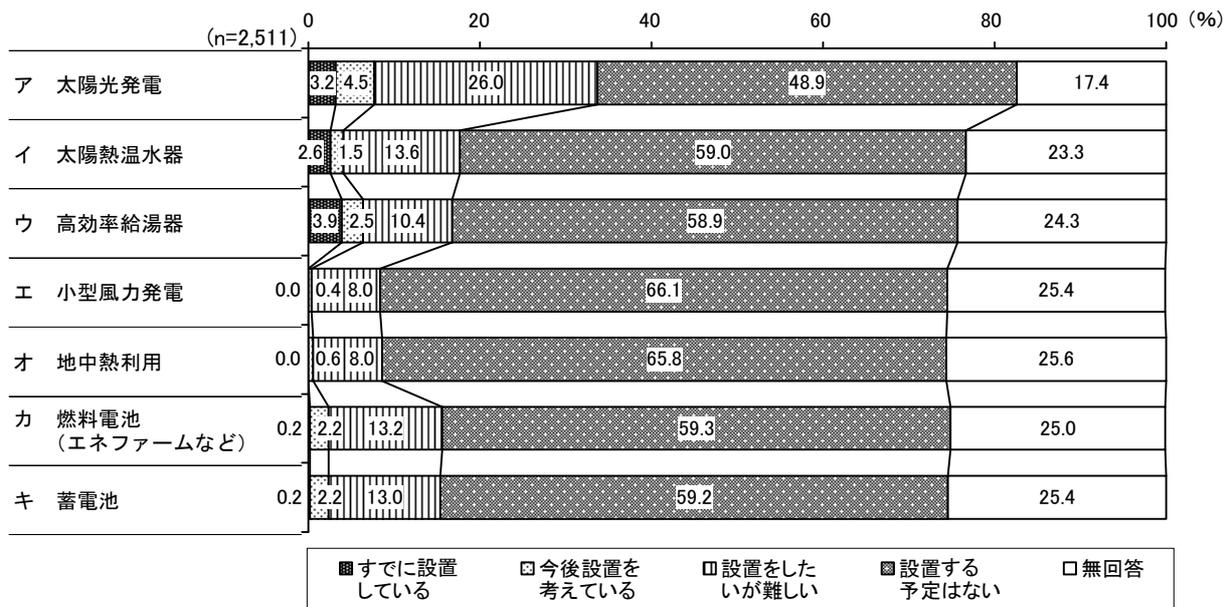


図 7-2 機器を使用した感想 (n=207)

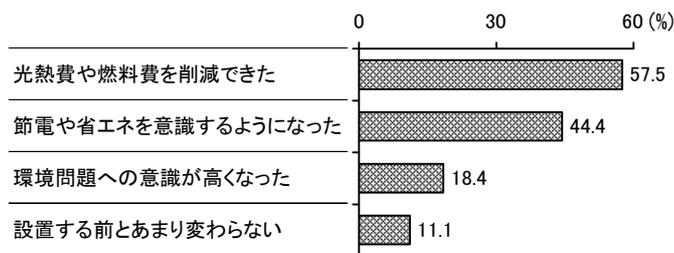


図 7-3 設置が難しい理由 (n=775)



○越谷市の取組では「太陽光発電」の利用を一番増やすべきと思う人が5割半ば、普及に必要な施策は「導入への支援・助成制度の充実」が約4割で最も多い。

○市民共同発電（市民が寄付や出資を通して公的施設などに再生可能エネルギー・省エネルギー機器を設置する取組）について「関心がある」は約2割、参加の意向あり（「利率が低くても参加したい」+「ある程度の利率が得られるのであれば検討する」）は2割半ば。

図 7-4 一番増やすべき再生可能エネルギー（上位 5 位）（n=2,511）

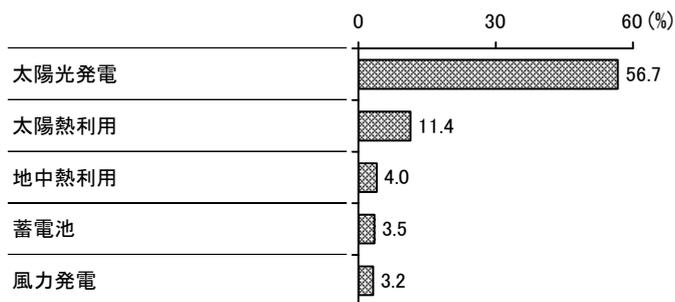


図 7-5 再生可能エネルギーの普及に一番必要な施策（n=2,511）

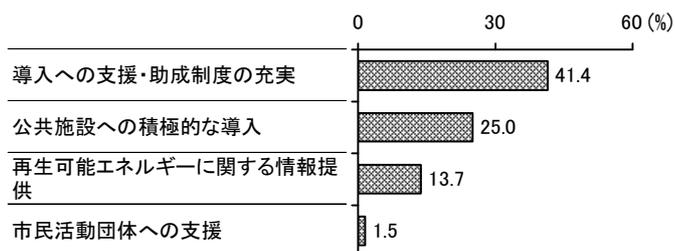


図 7-6 市民共同発電への関心（n=2,511）

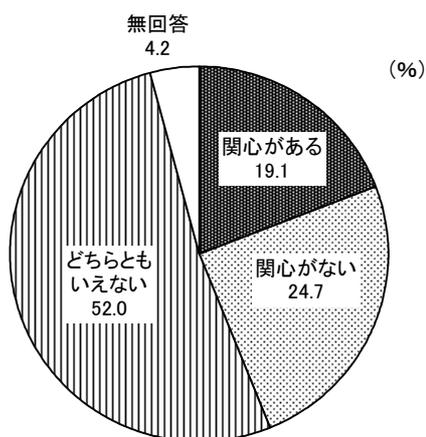
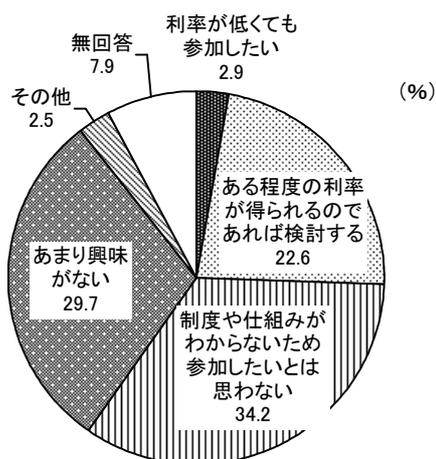


図 7-7 市民共同発電への参加意向（n=2,511）



8. 医療保険が行う健康増進事業について

○加入している医療保険については「越谷市国民健康保険」が約3割で最も多い。

○医療保険が行う保険事業として必要なものは「人間ドック受診料金の補助」が約7割で最も多い。

図 8-1 加入している医療保険 (n=2,511)

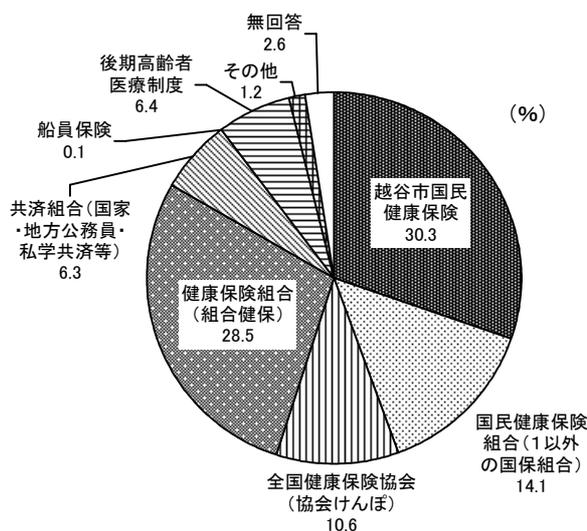
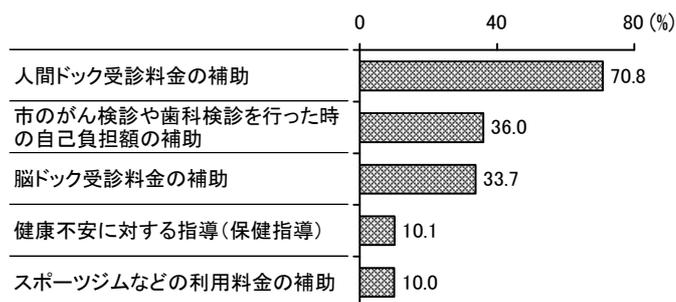


図 8-2 医療保険が行う保健事業で必要なもの (上位5位) (n=2,511)



9. 国民宿舎「両神荘りょうかみそう。」について

○市民が国民宿舎「両神荘 (りょうかみそう)」に宿泊した際、一人1泊 2,000 円の割引が受けられる制度の認知度 (「知っていて利用したことがある」+「知っているが利用したことはない」) は3割弱。

○「両神荘」を利用したいは2割強。利用したくない理由は「遠い」「不便」「場所がわからない」など。

図 9-1 割引が受けられる制度の認知 (n=2,511)

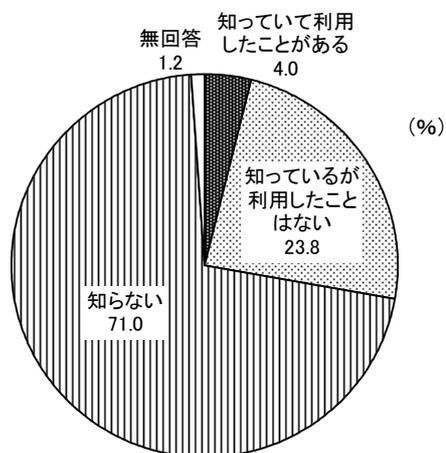
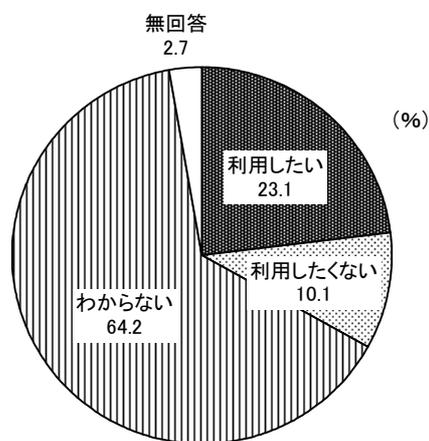


図 9-2 「両神荘」の利用意向 (n=2,511)



10. 火災報知器の設置状況について

- 住宅用火災警報器を「設置している」人は約7割。
- 住宅用火災警報器を設置した経緯は「自分で購入して設置した（取付作業を他人が行った場合も含む）」が約4割。
- 住宅用火災警報器を設置していない人の理由は「設置しようと思いつながら、そのままにしていた」が5割強。

図 10-1 住宅用火災警報器の設置 (n=2,511)

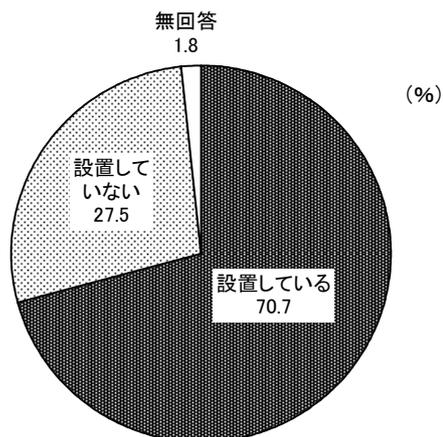


図 10-2 住宅用火災警報器を設置した経緯 (n=1,776)

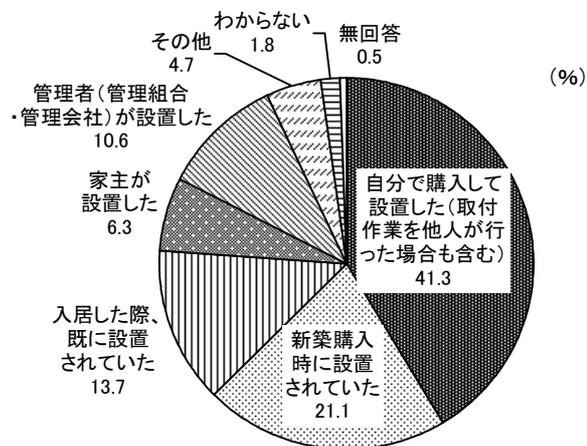
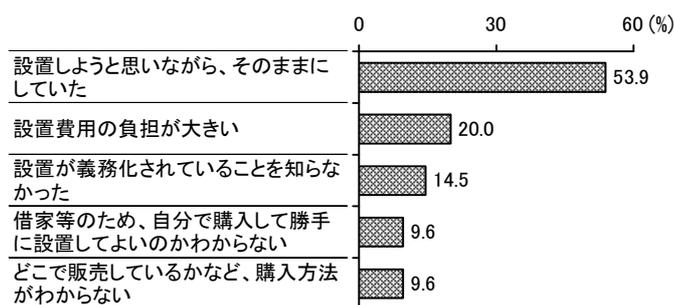


図 10-3 住宅用火災警報器を設置していない理由 (n=690)



11. 男女共同参画について

○男女共同参画における「ことば」や「ことがら」の認知について「内容を知っている」は「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が6割強で最も多い。

○「男は仕事、女は家庭」という考え方は賛成（「賛成」+「どちらかといえば賛成」）が3割強、反対（「どちらかといえば反対」+「反対」）が4割半ば。

図 11-1 「ことば」や「ことがら」の認知 (n=2,511)

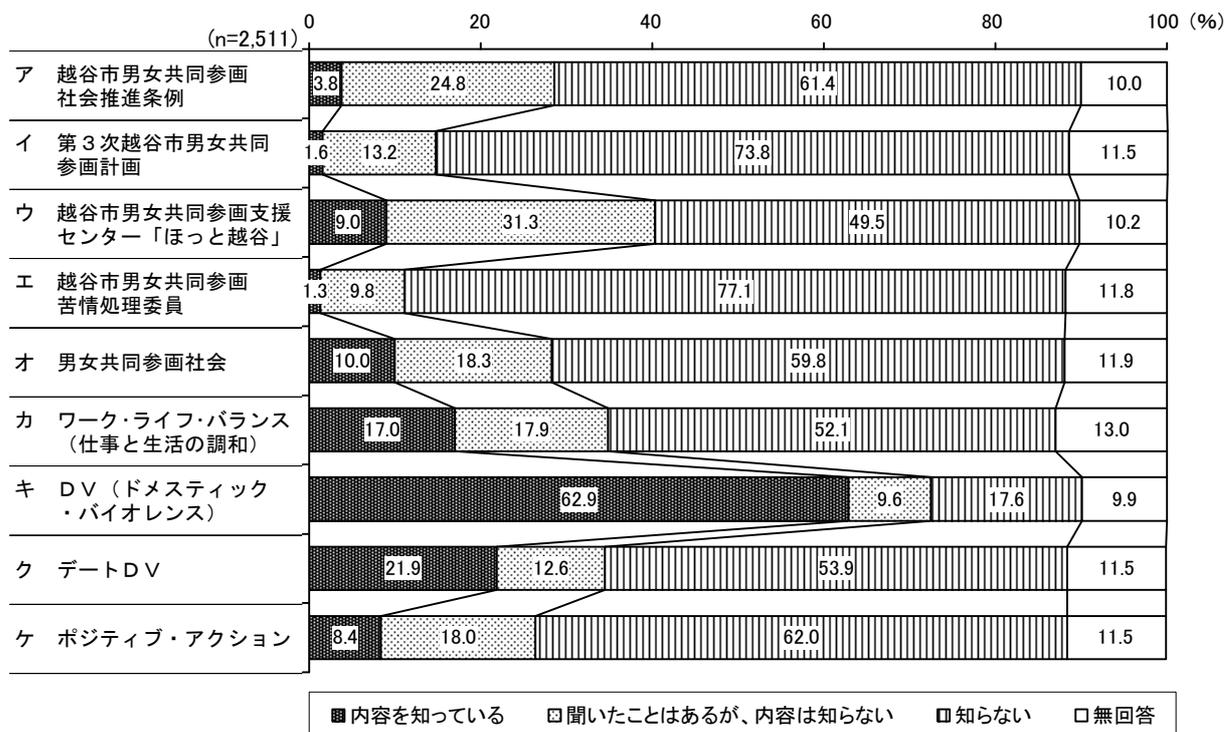
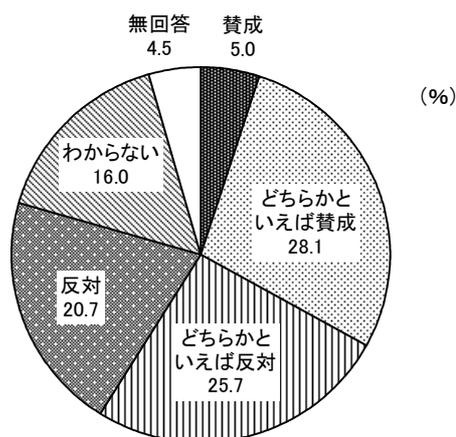


図 11-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否 (n=2,511)



- 男女が「平等になっていない」と思う分野は「社会通念や風潮において」が約5割。
- 女性の働き方について、理想は「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」が2割弱で最も多く、現実には「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」が2割半ばで最も多い。
- 仕事をしていく上で、能力に男女差があると思うかについて「そうは思わない」が5割弱。

図 11-3 男女平等の考え (n=2,511)

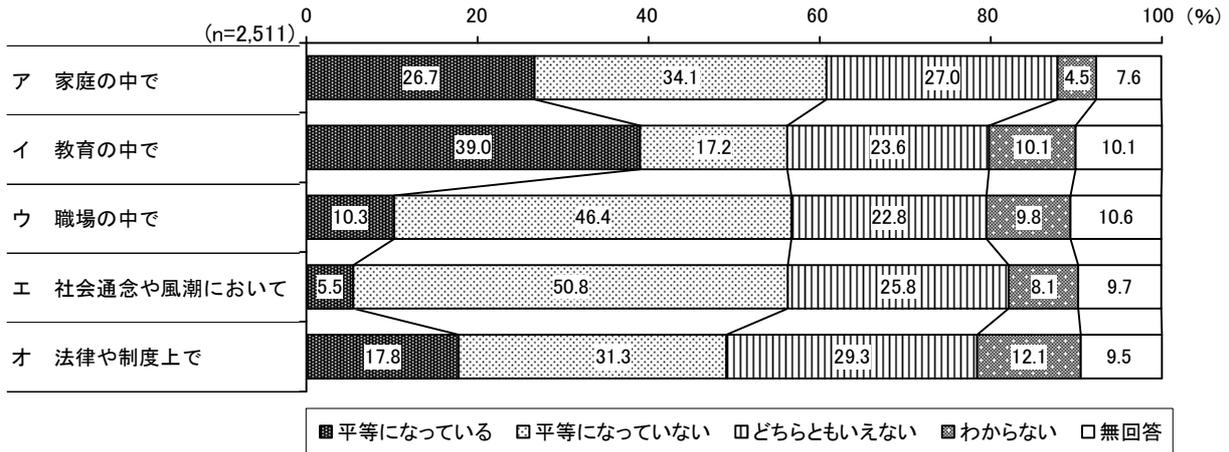


図 11-4 女性の働き方 (理想・現実) (n=2,511)

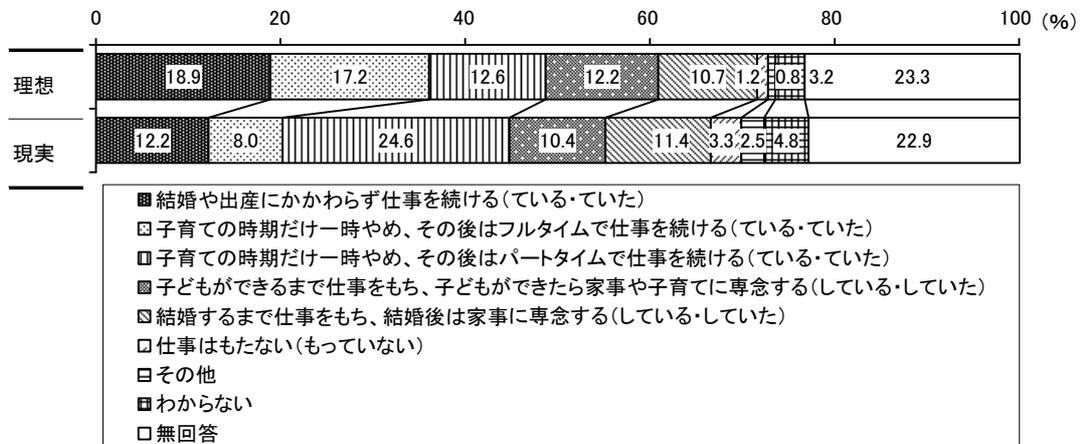
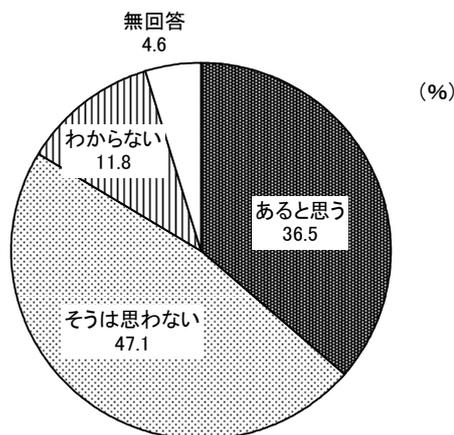


図 11-5 仕事上での男女別能力差 (n=2,511)



12. 「自治基本条例の普及」「市民参加と協働によるまちづくり」について

- 「越谷自治基本条例」については「知らない」が6割半ば。
- 関心のある市政に参加する方法は「アンケート」が4割弱、「住民投票」が3割半ばが多い。
- 市民と市が協働して取り組むことが必要なことは「暮らしの安全・安心に関すること」が5割半ば。
- 市政への参加やコミュニティ活動（地域活動・市民活動）へのかかわりに重要なことは「分かりやすく情報を提供すること」が約6割。

図 12-1 「越谷市自治基本条例」の認知 (n=2,511)

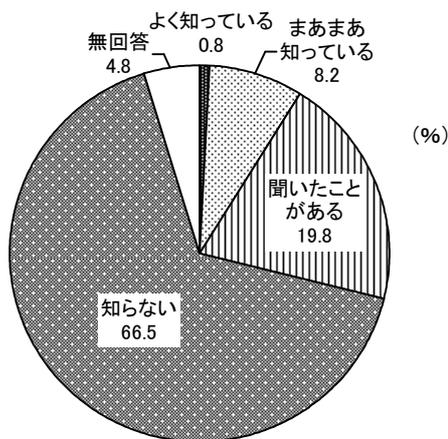


図 12-2 関心のある市政に参加する方法 (上位5位) (n=2,511)

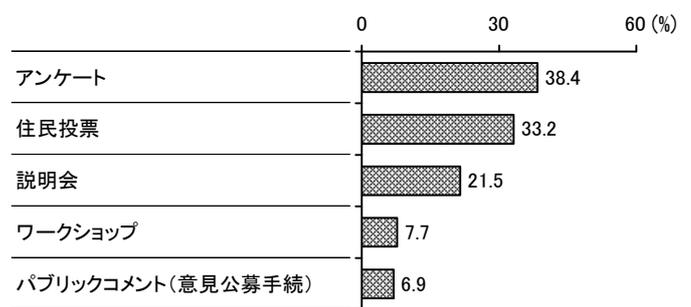


図 12-3 市民と市が協働して取り組むことが必要(効果的)な分野(上位5位) (n=2,511)

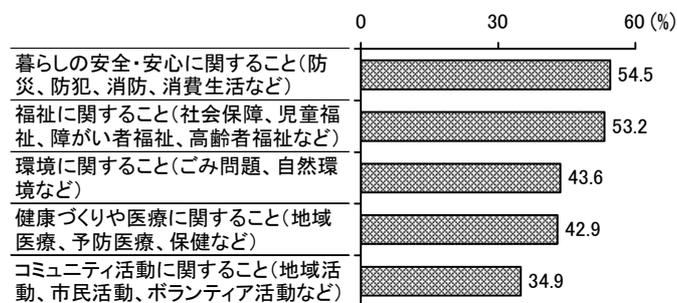
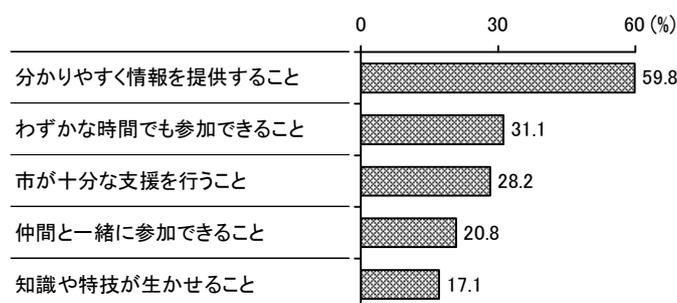


図 12-4 市政への参加やコミュニティ活動へのかかわりに重要なこと (n=2,511)



13. 中核市移行について

- 「中核市制度」の認知については「知らない」が約5割。
- 越谷市が平成27年4月に中核市移行を目指していることの認知は「知らない」が6割半ば。
- 中核市移行のメリットとして期待する市民サービスは「消防署に高度救助隊が設置され、大地震などの災害時における負傷者の救助活動がこれまで以上に強化される」が5割強で最も多い。

図 13-1 「中核市制度」の認知 (n=2,511)

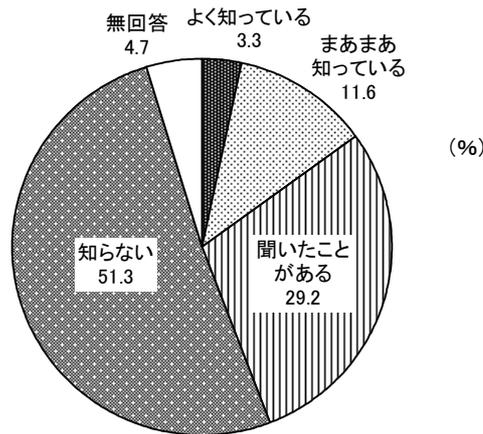


図 13-2 中核市移行の認知 (n=2,511)

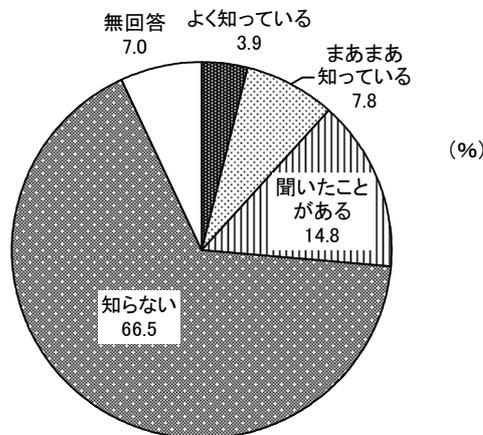
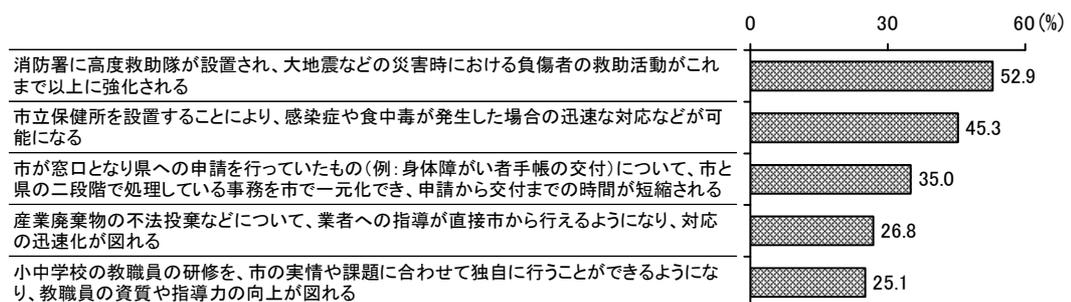


図 13-3 中核市移行で期待する市民サービス (上位5位) (n=2,511)



14. 広報について

○市政情報を主に得ているものは「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が7割弱で最も多く、市政情報を得るために活用したことがあるものについても「広報こしがや『お知らせ版』や『季刊版』」が9割強と最も多い。

○広報こしがやの感想は「おおむね分かりやすい」が「お知らせ版」で5割強、「季刊版」で5割弱と最も多い。

図 14-1 市政情報を得ているもの（上位 5 位）（n=2,511）

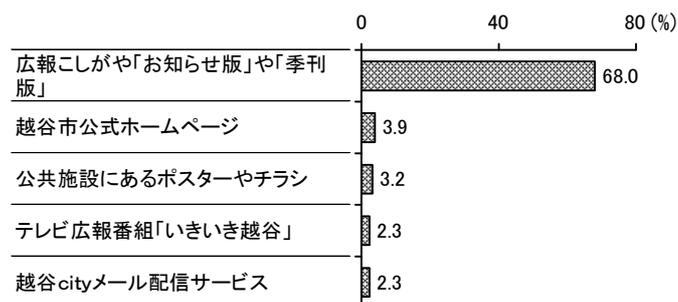


図 14-2 市政情報を得るために活用したことがあるもの（上位 5 位）（n=2,511）

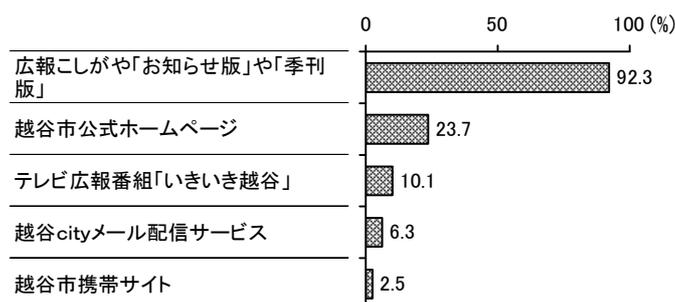
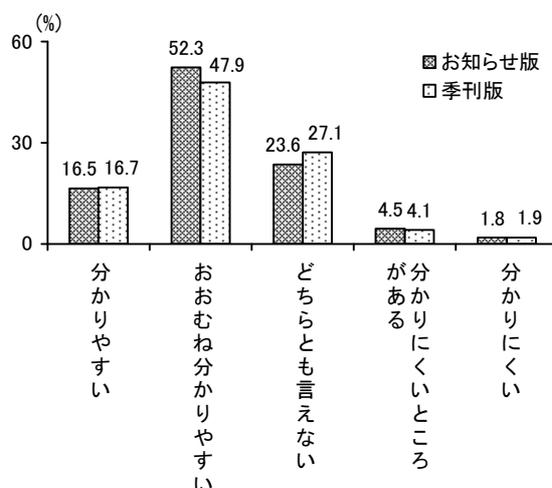


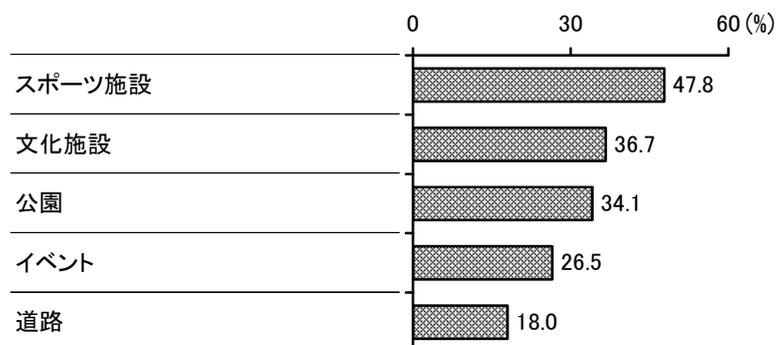
図 14-3 広報こしがや「お知らせ版」「季刊版」の感想（n=2,317）



15. ネーミングライツの導入について

○市の施設等にネーミングライツ（命名権）を導入する場合に望ましい施設、イベントについては「スポーツ施設」が5割強で最も多い。

図 15-1 ネーミングライツの導入に望ましい施設・イベント（n=2,511）



16. 越谷市の施策について

○市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は「駅周辺の整備」が4割強で最も多い。

○市の施策に対して、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は「防犯対策」が3割強で最も多い。

図 16-1 よくなってきたと感じるもの
（上位 10 位）（n=2,511）

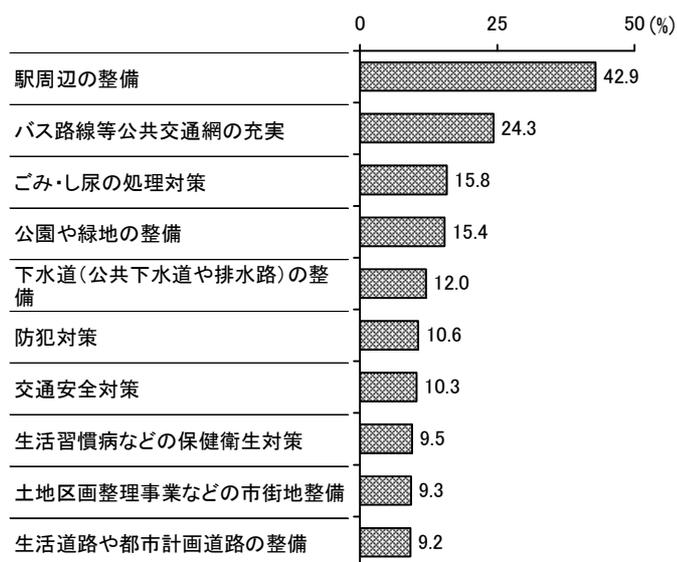
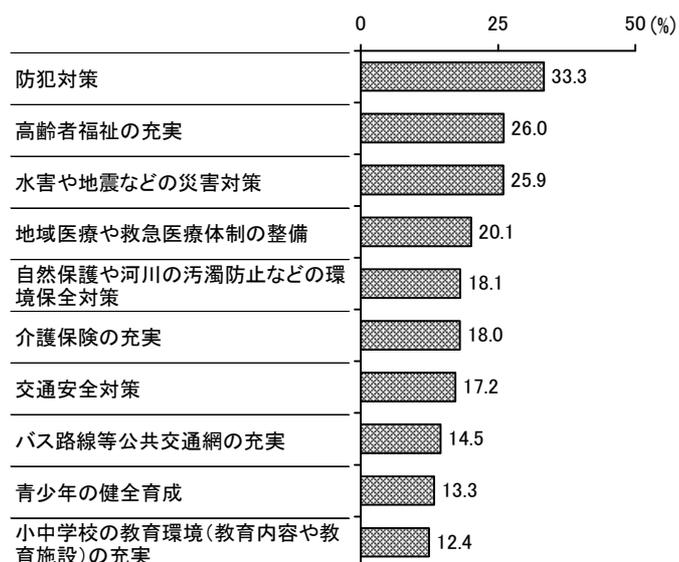


図 16-2 特に力を入れるべきだと思われるもの
（上位 10 位）（n=2,511）



市政世論調査報告書 概要版

平成25年11月

発行：越谷市 市長公室 広報広聴課

〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号

電話 048-963-9117（直通）
